

おぢや市議会 だより



NO. 98
令和 2.10.25

編集発行
小千谷市議会
☎83-3505

OJIYA CITY ASSEMBLY

- 第3回定例会議決結果…………… P2
- 常任委員会報告…………… P3～4
- 一般質問…………… P6～11
- 議会日誌…………… P12
- 雪あかり、編集後記…………… P12

—主な掲載内容—

「前向き ひたむき」
小千谷西高等学校写真部 撮影

第 3 回 定 例 会 議 決 結 果 (9月1日から9月24日まで開催)

議案番号等		議 件 名	議決状況	議決結果
予 算	議案第76号	令和2年度小千谷市一般会計補正予算(第6号)	全会一致	原案可決
	議案第77号	令和2年度小千谷市国民健康保険特別会計補正予算(第3号)	〃	〃
	議案第78号	令和2年度小千谷市介護保険特別会計補正予算(第2号)	〃	〃
	議案第79号	令和2年度小千谷市後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	〃	〃
決 算	議案第80号	令和元年度小千谷市一般会計歳入歳出決算認定	〃	認 定
	議案第81号	令和元年度小千谷市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定	〃	〃
	議案第82号	令和元年度小千谷市介護保険特別会計歳入歳出決算認定	〃	〃
	議案第83号	令和元年度小千谷市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定	賛成多数	〃
	議案第84号	令和元年度小千谷市工業団地事業特別会計歳入歳出決算認定	全会一致	〃
	議案第85号	令和元年度小千谷市ガス事業会計の利益の処分及び決算認定	賛成多数	原案可決 認 定
	議案第86号	令和元年度小千谷市水道事業会計の欠損の処理及び決算認定	〃	〃
	議案第87号	令和元年度小千谷市工業用水道事業会計の利益の処分及び決算認定	〃	〃
そ の 他	議案第88号	令和元年度小千谷市下水道事業会計の利益の処分及び決算認定	〃	〃
	議案第75号	専決処分(令和2年度小千谷市一般会計補正予算(第5号))	全会一致	承 認
	議案第89号	財産の処分(旧真人小学校栗山冬季分校)	〃	原案可決
	議案第90号	財産の取得(児童生徒用コンピュータ)	〃	〃
	議案第91号	小千谷市道路線の廃止	〃	〃
	議案第92号	小千谷市道路線の変更	〃	〃
発 議	議案第93号	小千谷市教育委員会委員の任命(鈴木進五氏)	〃	同 意
	発議案第4号	地方財政の充実・強化を求める意見書	〃	原案可決
	発議案第5号	コロナ禍において私立高校生が学費の心配なく学校で学び続けられるよう、私学助成増額・拡充を求める意見書	〃	〃
請 願	発議案第6号	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)を市民とともに乗り越える共生社会実現のための決議	〃	〃
	請願第3号	「コロナ禍において私立高校生が学費の心配なく学校で学び続けられるよう、私学助成増額・拡充を求める意見書」の採択を求める請願	みなし	採 択
	請願第4号	種苗法一部改正案の撤回を求める意見書に関する請願	継続審査	

※議決状況の「みなし」は、その請願に対応した同趣旨の意見書の発議案が提出され、先に採決したため、その議決結果をもって採択されたものとみなします。

議 員 賛 否 の 状 況 (採決において賛否が分かれたもの)

議案番号等	議決結果	賛成	反対	阿部守男	平澤智	上村行雄	駒井和彦	大矢弘光	佐藤栄作	森本恵理子	住安康一	内山博志	佐藤隆一	吉崎進	久保田陽一	長谷川有理	田中淳	山賀一雄	本田剛
議案第83号	認 定	14	1	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	-	○	○
議案第85号	原案可決 認 定	13	2	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	-	○	×
議案第86号	原案可決 認 定	14	1	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	-	○	○
議案第87号	原案可決 認 定	14	1	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	-	○	○
議案第88号	原案可決 認 定	14	1	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	-	○	○

※ ○は賛成、×は反対、議長(田中淳)は採決に加わりません。

常任委員会報告

総務文教委員会

委員長 上村 行雄

本委員会に付託されました議案第76号、議案第80号、議案第85号から議案第89号まで、及び請願3号の以上8件につきまして審査した結果、議案7件について原案のとおり可決すべきものと決しました。また請願1件は採択すべきものと決しました。

委員会での主な意見

○議案第76号 令和2年度小千谷市一般会計補正予算(第6号)

- ・消防費及び教育費について。消防や学校の現場で働く人たちは欠くことのできないエッセンシャルワーカーだと思ふ。新型コロナウイルス対策として、消防であれば仮眠室の個室化、学校であれば教務室の三密対策など、働く上で支障が出ないよう進めてほしい。

○議案第80号 令和元年度小千谷市一般会計歳入歳出決算認定

- ・総務費の地域振興費について。

市民協働に関わる補助金の実績が下がっている懸念がある。

市民の活動団体の活性化に資する取り組みに戦略を持って奮闘してほしい。

・民生費の生活応援商品券事業について。

生活困窮者の方々への支援が思ったほど成果が上がらない。

今後同じような事業は精査し次の事業に生かしてもらいたい。

・衛生費の予防費及び母子衛生費について。

予防接種費用、産後ケア、妊産婦医療費助成等の実施率や受診率の実績が上がっていない。効果的な広報や事業のやり方を検討してほしい。

・農林水産業費の山本山育成牧場経費について。

山本山休憩所の有効利用は地域に経済効果をもたらす部分もある。更なる景観形成に取り組み、名所となるよう前向きな検討を期待したい。

・教育費の教育指導費及び育成センター費について。

不登校児童生徒が市内で増加しており、困りごとの増加も懸念されることから、育成センターやマイルームの運営改善を検討しながら行ってほしい。

○議案第87号 令和元年度小千谷市工業用水道事業会計の利益

の処分及び決算認定

主要な給水先である企業の売却が検討されているという報道の中、どのような企業になろうとも給水事業を成り立たせる交渉を行ってほしい。

委員会での主な討論

○議案第80号 令和元年度小千谷市一般会計歳入歳出決算認定

子育て支援の前進という点では評価する。税金は応能負担の原則に立脚し、逆進性の強い消費税に頼るべきではないとの意見を述べて賛成。

○議案第85号から議案第88号の4件の公営企業会計決算について

消費税増税分の上乗せは庶民や中小企業への負担を強くするものなので反対。

○請願第3号「コロナ禍において私立高校生が学費の心配なく学校で学び続けられるよう、私学助成増額・拡充を求める意見書」の採択を求める請願

金銭的格差がなくなることによって私立高校を選ぶ子どもが増えれば、公立高校を希望する子どもが減っていく可能性がある。ある程度の格差は正の目標を定めるべきではないかとの意見を付して賛成。

民生産業委員会

委員長 住安 康一

本委員会に付託されました議案9件について、慎重に審査した結果、原案のとおり可決すべきものと決しました。また、請願4号「種苗法一部改正案の撤回を求める意見書に関する請願」については、さらに調査研究が必要であることから、継続審査とすることに決しました。

○議案第77号 令和2年度小千谷市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)について

本案は令和元年度保険給付費等の額の精算に伴い、予算の総額に歳入歳出それぞれ11万6千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ31億3743万6千円とするものです。

○議案第78号 令和2年度小千谷市介護保険特別会計補正予算(第2号)について

本案は令和元年度の介護給付費等の確定に伴い、歳出において、関連する国県支出金等過年度分返還金の増額及び介護給付費準備基金積立金の増額、歳入において、令和元年度決算に伴

う繰越金の計上及び予定した基金からの繰入を行わないとするもので、歳入歳出それぞれ6752万3千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ39億9123万2千円とするものです。

○議案第79号 令和2年度小千谷市後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)について

本案は令和元年度の保険料及び療養給付費の確定に伴い、予算の総額に歳入歳出それぞれ2137万4千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ8億2830万7千円とするものです。

○議案第81号 令和元年度小千谷市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について

歳入総額は、前年度比2.9%減の31億5351万1795円、歳出総額は、前年度比2.9%減の30億9566万110円、差し引き5785万1685円となり、翌年度へ繰り越すものです。

○議案第82号 令和元年度小千谷市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について

歳入総額は、前年度比1.4%減の38億5923万9968円、歳出総額は、前年度比0.1%増

の37億6521万9207円で、差し引き9402万761円となり、翌年度へ繰り越すものです。

○議案第83号 令和元年度小千谷市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について

歳入総額は、前年度比3.7%増の7億6636万8547円、歳出総額は、前年度比2.9%増の7億5897万3150円で、差し引き739万5397円となり、翌年度へ繰り越すものです。

○議案第84号 令和元年度小千谷市工業団地事業特別会計歳入歳出決算認定について

歳入総額は、3億6488万7336円、歳出総額は3億6475万5977円で、差し引き13万1359円となり、翌年度に繰り越すものです。

○議案第91号 小千谷市道路線の廃止について

本案は、願成寺3号線を廃止するものです。

○議案第92号 小千谷市道路線の変更について

本案は、城川9号線及び芋坂1号線において、終点変更するものです。

第3回定例会で可決した意見書・決議

地方財政の充実・強化を求める意見書

【内容】

今、地方自治体には、医療・介護など社会保障への対応、子育て支援策の充実、地域交通の維持・確保など、より多く、またより複雑化した行政需要への対応が求められている。しかし、新型コロナウイルス感染症対策や近年多発している大規模災害、そのための防災・減災事業の実施など、緊急な対応を要する課題にも直面しており、人口減少・超高齢化に伴う社会保障費関連をはじめとする地方の財政需要に対応するためには、さらなる地方財政の充実・強化が求められる。国において、令和3年度の政府予算と地方財政の検討にあたり、歳入・歳出を的確に見積もり、地方財政の確立を目指すよう要望する。

(提出先) 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、内閣官房長官、総務大臣、財務大臣、経済産業大臣、経済再生担当大臣、まち・ひと・しごと創生担当大臣

コロナ禍において私立高校生が学費の心配なく学校で学び続けられるよう、私学助成増額・拡充を求める意見書

【内容】

全国では約3割の高校生が私立高校で学んでおり、私立高校は公立高校と同様に公教育の場として大きな役割を果たしている。コロナ禍における私立高校生の学びを保障し、教育の充実を図るため、私立高校生への就学支援金制度や学費軽減制度を拡充することを要望する。

(提出先) 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、文部科学大臣、新潟県知事



新型コロナウイルス感染症（COVID-19）を市民とともに乗り越える 共生社会実現のための決議

【内容】

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界的に蔓延する中、現在のところ感染経路、治療法、感染してからの経緯など、明確には解明されていない部分が多々ある新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対して、日本社会も甚大な被害を被っています。

市民憲章小千谷市民のねがいにある「雪にくじけぬ、たくましいまちに。いたわりと真心のあふれるまちに。健康で、文化の香り豊かなまちに。はたらく喜びにみちた産業のまちに。」を標榜する小千谷市民として、力をあわせて、未知のウイルスによる分断と混乱を断固として打ち破り、何があっても負けない決意をもって、いわれなき偏見や差別が起らない社会を作り上げていくことを目指すべく、小千谷市議会は以下を決議する。

- 1 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）をはじめとする、ウイルス等感染者とその家族および接触者にいわれなき偏見や差別により、それらの方が住みづらくなるような言動は厳に慎む。
- 2 医療関係者をはじめとするエッセンシャルワーカー、同感染者と関係する仕事に従事される方々やその家族に敬意を払い、感謝の気持ちを忘れない。
- 3 同感染者と関係者が勤務または利用した施設や事業所に対し、偏見を誘発・助長するような差別的な取り扱いや言動は厳に慎む。
- 4 市行政関係者や議会は個人情報に十分に配慮しつつ、前述「1」「2」「3」が確かに実行されるよう広報・啓発に努めるものとする。
- 5 ふるさと小千谷をより一層希望あふれるまちとするため、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）を、市民とともに乗り越えることを表明する。

令和2年9月24日

小千谷市議会



※意見書の内容は抜粋して掲載しています。本文（全文）は市議会ホームページをご覧ください。

～意見書とは～

市の公益に関することについて、議会の意思を意見としてまとめた文書のことをいいます。

議決された意見書は、国会や関係行政庁に提出します。

～決議とは～

市民生活に関わる緊急、重大な事項に関し、議会の意思を対外的に表明するために行う議決のことです。

駒井 和彦 議員



第五次小千谷市総合計画
後期基本計画等について

質問 真人・岩沢間の架橋について。

答弁 平成4年の真人岩沢架橋促進期成同盟会発足時から28年が経過しているが、第五次小千谷市総合計画前期基本計画においての記載については、平成23年第2回定例会の柳田議員の一般質問と同様、架橋の可否も含め、方策について検討するとしたもの。また、第五次小千谷市総合計画前期基本計画の計画期間において、毎年度実施している地域懇談会や地元要望などでの当該案件についての意見・要望はない。事業検討については、費用対効果などの指標項目の一つとして、地域人口動態も関連性がある。国勢調査による岩沢、真人地区の人口推移は、平成17年と平成27年を比較し、2割以上減少している。一方で岩沢地内を通過する国道及び、真人地

内を通過する県道の整備は、着実に進捗している状況である。これらの状況から、国からの交付金を受ける公共事業の採択には、架橋による費用対効果を得ることは極めて困難と考えるが、最終的には総合計画審議会

で決定される。

質問 最終的に審議会で第五次小千谷市総合計画後期基本計画に記載するかどうか決めるということか。

答弁 そのとおりである。

質問 産業廃棄物処理場は、市民の安心安全の観点から、行政が作り、運営すべきと考えるが。

答弁 民間も法令に適合していれば公共と同じ。従って当市として新たな事業化は考えていない。なお、当市内の既存施設については、今後もダイオキシンの測定検査を毎年継続していく。



山賀 一雄 議員



総合支援学校の取組みと
障がい者計画について

質問 障がい者計画は、来年度見直しされるが、検証を始めているのか。策定の方針などは。

答弁 地域自立支援協議会から毎年度、点検・評価を受け、検証を行っている。障がい者の現状やニーズを把握するためのアンケート調査を行い、その結果や現計画の検証・評価を基に次期計画を策定していく。

質問 総合支援学校、小・中学校支援学級に通う児童生徒の推移、将来予測の把握について。

教育長答弁 年度によって差はあるが、概ね40人から50人程度の範囲で推移していくと予測。

質問 当市のインクルーシブ教育の傾向はどうか。

教育長答弁 就学相談を進めてきた結果として、総合支援学校を選択する保護者が増えており、子どもの実態に即した特別支援教育を専門的に受けたいと

いう現れであると捉えている。

質問 総合支援学校及び小・中学校支援学級の教室不足問題をどう捉えているか。総合支援学校のスクールバスは、増車すべきと考えるか。

教育長答弁 総合支援学校は、作業室棟増築工事により、当面、教室不足は発生しないと考えている。小・中学校支援学級は、児童生徒が増加する傾向にあり、不要となる特別教室の活用などで対応する。乗車人員が増えた場合、保護者や地域の方などの協力を含め、対応を検討する。

質問 就労支援としての職場実習事業所、福祉サービスマスターの現状をどう把握しているか。

教育長答弁 市内事業所の協力もあり、各学年の狙いに合致した実習ができています。福祉サービスマスターは、今後の受け入れ人員の増加への対応に危惧していたが、共生型サービスマスターが開始されることとなった。

質問 就労支援コーディネーターの配置も必要と考えられるか。

教育長答弁 県立特別支援学校を対象に配置されるものであるが、配置について働きかけたい。

本会議をインターネット中継しています

市議会ホームページからインターネットライブ中継でご覧いただけます。
本会議当日のライブ中継のほか、本会議終了後概ね1週間後には、録画映像も配信しています。
市政への一般質問で各議員の顔写真の下にQRコードを掲載しています。
スマートフォンやタブレット端末でQRコードを読み取ると、各議員の一般質問の録画中継をご覧いただけます。
また、会議録も市議会ホームページで閲覧できます。
(令和2年第3回定例会の会議録掲載は、11月末頃となります。)

URL <https://www.city.ojiya.niigata.jp/site/gikai/>

小千谷市議会

検索

阿部 守男 議員



オン・セミコンダクター 新潟工場売却について

質問 オン・セミコンダクター
新潟工場売却について。

答弁 市内に立地する新潟工場の売却については、製造拠点を最適化し、高度に差別化されたパワー、アナログ、センサ製品への注力を強化するという説明があり、雇用の継続等について強くお願いをした。同社の戦略や意向が優先されるなかで、後方支援として、県及び経済産業省と情報を共有し、協調して対応していく。

質問 働き方改革について、取り組みの検証、市民サービスへの影響について。

答弁 残業時間の上限を規制し、業務内容や効率性を点検し事務の改善に努める。業務の繁閑に応じた職員の臨時的応援体制を整備。令和元年度の職員の残業時間は、平成30年度に比べ約630時間縮減した。そのこ

とよる市民サービスへの影響はないと認識している。

質問 耐用年数がある施設などの経過後の管理、道路管理について。

答弁 耐用年数を60年とし、建設から30年後に大規模改修、60年後に建て替えを行うこととしているが、経過年数により機械的に建て替えはしない。屋上防水は劣化状況や有資格者による定期報告制度での調査結果に応じて対応する。道路管理について、小千谷市道路舗装修繕計画の中で修繕順位を決めるための評価基準を設け、路線の重要度により舗装修繕を計画的にしている。特に通学路については、小千谷市通学路安全推進会議の合同点検結果より通学通行の安全性を確保している。消雪パイプについては、修繕基準の規定はないが、町内要望、道路パトロールで対応している。

森本恵理子 議員



地域資料デジタル化について

質問 小千谷市史をはじめとする多くの地域資料を保存、活用し、未来に伝達していくためにデジタル化が必要では。

教育長答弁 提案のとおり、市史のテキストデータ化をはじめ文献資料や絵紙などの文化財も順次デジタル化を進めていきたい。

学校のパソコン環境について

質問 ハード環境は整備されるがソフトの整備予定と、オンラインによる長期欠席対応として学習支援に活用する予定は。

教育長答弁 ソフトは来年度以降に整備を進めていく予定。オンライン支援は環境が整えば活用していくことも可能。学習保障の手段の一つとして考えていきたい。

質問 校務支援システムを導入することなどにより教員の働き方改革を進めては。

教育長答弁 統合型校務支援シ

ステムなどの導入は多忙化解消につながる一つであり、周辺市町村の導入状況を見極め対応していく。

真夏の中学校の運動会について

質問 市内中学校の運動会を命の心配をしながらもよい時期へ変更するよう働きかけが必要と考えるが見解は。

教育長答弁 十分な熱中症対策をとったとしても開催時期には適していないと考える。各学校長の判断となるが働きかけた

子どもたちをめぐる保健衛生環境について

質問 これ以上ムンプス由来の聴覚障がいを増やさないよう、おたふく風邪ワクチン接種の啓発に努めるとともに費用助成についての見解を伺う。

答弁 国の動向を見守りたい。

質問 ピロリ菌検査の今後の展開と、中学生を対象としたピロリ菌検査について見解を伺う。

答弁 中学生に対しては考えていないが、40歳までの除菌治療による胃がん予防効果が高いことから特定健診における16歳から39歳までのピロリ菌検査に加えて普及啓発を強化する。

市議会を傍聴してみませんか

第4回定例会開催予定

12月2日(水)	第1日	議案上程説明
12月3日(木)~7日(月)		各常任委員会で審査
12月17日(木)	第2日	一般質問
12月18日(金)	予備日	一般質問(質問者が多い場合に開催)
12月22日(火)	最終日	委員長報告、採決

※日程は変更される場合があります。各委員会の日程、団体での議会傍聴については議会事務局(Tel.83-3505)へお問い合わせください。委員会の傍聴については、あらかじめ議会事務局へお申し出ください。

長谷川有理 議員



新型肺炎感染症課題

負担ない安心・安全な学校を

質問 新型肺炎禍で変更した学校行事支援を。

教育長答弁 代替行事を各校で工夫している。修学旅行キャンセル時には保護者負担を減らす。

質問 現場負担を減らすために校務支援システムを導入すべき。周辺市町村はすでに導入済み。

教育長答弁 導入する方向で進める。

質問 休校中の給食中止や夏休み後の行き渋りやいじめ、不登校などの対応は十分か。

教育長答弁 食の困り感のある家庭の報告はなかったが把握した場合は対応する。行き渋りは若干あったがしっかり対応した。

質問 感染症対策で更なる多忙化軽減のための人員増員を。

教育長答弁 校内消毒等を行うスクールサポートスタッフを大規模校以外にも11校各一人配置。

質問 当市の感染防止の更なる対策を
質問 インフルエンザと流行が重なる冬季の感染警戒と当市のPCR検査センターの設置は。
答弁 インフルエンザ予防接種の高齢者の無償化やこどもへの助成は考えていない。発熱外来を設置する必要はないと判断しているが県から要請があれば協力する。県との役割分担がありPCR検査センター設置は当市の役割ではないので設置しない。
質問 PCR検査センターで高齢者や持病がある人が発熱や咳症状がなくても希望して検査を受ける場合に市区町村に対し費用の半額を補助する方針、閣議決定の報道も先日あったが。
答弁 閣議決定されても事務的な手続きはこれから。それが市の役割ならしっかり対応する。
質問 感染症禍で地域包括支援センターへの相談は増加しているのでは。地域包括が1か所であれば十分な対応出来るのか。
答弁 前年同期比較で確かに増えている。1か所の方が市内全域の課題を総合的に捉え連携可能。若者や女性等雇用や企業支援を
質問 移住・定住SNS強化を。
答弁 来年度サイト統合の予定を前倒ししてリニューアルする。

内山 博志 議員



新型コロナと熱中症対策、学童クラブ等

消費増税、新型コロナ

の感染でほとんどの産業で経済活動が大変だ。国の持続化給付金は昨年比で50%以上落ち込んだところが対象で不十分だ。50%未満でも財政調整基金約28億円を役立て支援すべきではないか。住宅リフォーム補助金制度の告知、申請期間を申請者の立場で改善すべきではないか。地代家賃助成の延長を。

答弁 資金繰り支援で保証料の補給をした。住宅エコリフォーム補助金は、6月17日まで延長した。市が実施した家賃助成は、20%以上の落ち込みを対象にした。国の補助金も利用してほしい。

質問 高齢者世帯、生活保護世帯のエアコン設置や電気代補助が必要ではないか。
答弁 民生・児童委員やケースワーカーなどによる見守りや助

質問 学童クラブ利用料の負担軽減を。学童クラブ設置は小学校内が望ましい。約600メートル離れたところもある。今一度点検、協議を。
答弁 現在の負担軽減策を継続する。毎年協議をしているが、可能な限りニーズに即した設置が出来るよう調整していきたい。
質問 特別支援学校にアシスタントの配置を。
教育長答弁 児童・生徒数の推移を注視し、必要に応じて、県に教職員の適正配置を要望したい。
質問 市内の老健施設一つが特養に替わる。市の対応は。
答弁 特養の待機者が老健施設にも一部入所している。特養が増えれば入所者が移ると見込めるので老健が機能と役割を果たすことが出来るかと考える。

市議会だよりをアプリで配信中

スマートフォンやタブレット端末で使える無料アプリ「マチイロ」で配信中です。

最新号を発行日に自動でお届けします。ぜひご利用ください。

Android用 QRコード



iPhone用 QRコード



本田 剛 議員



小千谷学生寮について

質問 来春の女子学生寮の併設構想の有無について。

教育長答弁 併設構想はなく、既存の学生寮施設に女子が入寮する方向で長年検討。理事会、評議員会において、女子入寮のために必要な改修工事の実施が承認され、今年中に実施、来春の入寮に向けた準備が進められる予定である。

質問 入寮者数の現状と老朽化した施設整備について。

教育長答弁 今年度は22名でスタートの予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大により大半も休講、その後も対面授業が中止等で新入生入寮の延期で現在は16名が在籍。25室の内、今年度末に途中退寮も含み、15室が空く見込み。学生寮は昭和32年に建築、57年に二入部屋へ改修、平成22年に内外装リニューアルし現在に至っている。



質問 設備面の改善方針は。
教育長答弁 今年度中に実施する改修工事は女子浴室、洗濯室、トイレの増設、セキユリティ対策強化のため、玄関建具の交換、電気錠の設置を予定。既存の住環境の改善で厨房及び洗濯室改修、洗面化粧台、ミニキッチン

の設置、トイレ手洗器の移設等が予定されている。

質問 建物の耐震性、強度面の耐震クリアの数値、水害の危険性と対策について。

教育長答弁 耐震性については、杉並区の耐震化支援制度を利用して平成20年度に耐震診断を実施。耐震性能を表すIS値は、規定値0.80を満たし問題なしで判定された。構造部材の強度は、コンクリート圧縮強度試験で耐震補強は必要がない建物であった。杉並区ハザードマップでは、浸水想定区域ではなく過去浸水履歴も無く水害の危険性は低いとされた。

平澤 智 議員



児童生徒用コンピュータ整備事業について

GIGAスクール構想に基づく市内小中総合支援学校へのひとり一台コンピュータ一括導入という大規模整備事業につき、これまでとは違った計画が必要と思われる。

質問 保守点検業務やコンピュータの環境復元機能は。

教育長答弁 定期的な保守や環境復元機能は考えていない。その都度の修繕で対応する。また、コンピュータの取り扱いや設定については一定のルールを設け同一環境を保持できるようにしたい。

質問 更新プログラム適用のタイミングで授業に影響を与える可能性は。

教育長答弁 管理するアプリケーションの設定で更新のタイミングをコントロールできる。

質問 自宅に持ち帰らせての利

教育長答弁 すぐには持ち帰り使用は想定していないが将来的に検討する。その際には環境・セキユリティーに配慮する。

質問 ソフトウェア整備について、オフィスソフト以外の整備予定は。

教育長答弁 各学校と十分な協議を行ったうえで選定し、整備を進める。

質問 今後のパソコン教室の運用について。

教育長答弁 今後一人一台が整備されればパソコン教室は不要となるので、各学校の状況に応じて有効に活用していきたい。

質問 盗難対策としての保管場所についての計画は。

教育長答弁 各教室に鍵付きの充電保管庫を設置する予定。

質問 教育現場や取扱い業者、行政の連携についての考えは。

教育長答弁 今回のコンピュータ整備事業は前例のない大規模な整備となることから、その管理についても、さまざまな配慮が必要になるものと思われる。十分な協議を行い、導入後の円滑な運用に向けてマニュアル作成など必要な対応を行う。

議会用語豆知識

①会期

議会が会議を開く期間(開会日から閉会日)のことです。

②定定数

議会が会議を開くために必要とされる出席議員の数。本会議では議員定数の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができません。

③議決

議員の表決により、議会の意思を決定することで、次のような種類があります。
・可決(否決)：予算、条例、契約、意見書、決議など
・認定(不認定)：決算
・承認(不承認)：専決処分
・同意(不同意)：人事案件
・採択(不採択)：請願

④専決処分

議会の議決が必要な事項について、特に緊急を要するため議会を招集する時間的余裕がないとき、市長が議会に代わって意思決定をすることです。専決処分したときは、次の議事に報告し、承認を求めます。

大矢 弘光 議員



情報の電子化がもたらす社会構造の変革(社会のデジタル化)と、それらに対する方針について

質問 教育の力により、子ども達にどのような知識・経験を持たせて世の中に送り出すべきか。

教育長答弁 課題解決能力が求められる。ICTを使いこなすスキルを身につけ、現実的な問題・課題を的確に把握し解決する能力が必要。また、物事に柔軟に対応していく力、あきらめず試行錯誤の中から解決策を見出そうとする粘り強さ、他の意見に耳を傾け自身に取り込もうとする態度なども大切な資質と考える。新学習指導要領では知識を活用する力・思考力・判断力・表現力・お互いに学びあう力の育成を目指す。

質問 学校の果たすべき本質的な役割とは。

教育長答弁 協力し、時には競

争し、多様性や思いやりの大切さ、公共の精神、それらからくる達成感や喜びなど、人との関わりから学ぶことは多く、学力の向上とともに、人格の形成を目指す人間教育の場と考える。「自ら考え、心豊かに、たくましく生きる小千谷の子ども」の育成を目指し、「おちやっ子」教育プランを進めていく。

質問 市民の情報格差に対する行政の関わり方について。

答弁 インターネットなどの情報通信技術を使える人と使えない人との間に情報格差が生じていることは認識している。特に災害時や全市民にお伝えしなければならぬ情報も多く、電子媒体と紙媒体による情報提供の併用が必要であり、現在は過渡期であると考えている。市としては、今以上に学び直しやリカレント教育の一環として利用講座の開催を呼び掛ける。

質問 通信関連事業の機能強化の必要について。

答弁 行政内部では、ペーパーレス化を含め、並行してセキュリティ対策や情報機器の整備、体制の整備について検討している。

佐藤 栄作 議員



今後の学校教育について

質問 児童生徒用コンピュータについて、どのように使用していくのか。

教育長答弁 授業を補助する、学習のツールとして使用することを想定している。

質問 児童生徒用コンピュータについて、教師の講習会といった頃から児童生徒が使用できるか。

教育長答弁 教師の講習会等について、現在も教育センターが中心となりICT研修を行っているが、必要な研修を充実させ、教師のスキルアップを図っていききたい。来年度から使用できるように準備を進めていく。

質問 児童生徒用コンピュータで不登校児童生徒が授業を受けられるか。また、双方向のオンライン教育が受けられるか。

教育長答弁 不登校児童生徒については、学校に登校できるよ

うに指導、将来的に環境が整えば授業を受けることは可能。

質問 教育委員会での取り上げ方は。

教育長答弁 ICTを活用した教育全般について、意見や考えを伺いながら事業を進めていく。

質問 パソコン上の教育が優先してコミュニケーションの欠如の問題はないか。

教育長答弁 人と人とのコミュニケーションが欠如することはなく、子どもの成長には問題はない。

質問 GIGAスクール構想における現在の問題点は。

教育長答弁 課題として、整備された機器を使いこなせる教職員のスキル向上と、児童生徒が使いこなせるようになること。

質問 教科担任制について。

教育長答弁 文科省から方針や通知を受けていないので現段階では答えることができない。

質問 親が心掛ける6カ条について保護者にどう広めていくのか。

教育長答弁 PTAや学校と連携し、保護者に取り組んでもらえるように働きかけていく。

視察研修を行いました

8月24日に、東北電力(株)長岡電力センターへ伺い、研修会を行いました。

災害対応についての説明を受け、高所作業車、配電指令室等を視察しました。



住安 康一 議員



災害に強い小千谷の実現

質問 防災用家庭備蓄品や持出し袋などの準備状況を市として把握することも必要ではないか。

答弁 防災訓練実施の際や自主防災会での研修などの機会を通じて、準備状況を聞く。

質問 災害時の高齢者の情報収集をどのように進めていくのか。

答弁 緊急告知ラジコを全世界帯に配置し整備した。スマートフォンなどからの情報を取ることも効果的。情報収集の効果的な方法などの周知に努める。近くに住む方の避難の呼びかけなどは効果的な情報伝達手段であり、取り組みのお願いを継続したい。

質問 地区防災計画の策定のため、手引を作成し支援が必要。また、職員のサポートが必要。

答弁 内閣府の地区防災計画ガイドラインを活用する。計画の策定主体は地区であり、自ら考

えることが第一義。自ら計画を作ることで災害時に効果を発揮する。

質問 災害時にはスマホ等で被災状況を写真や動画で送ってもらうことにより、迅速に正確な情報を得ることができると。災害時における情報収集のためICTの活用を提案する。

答弁 情報収集する仕組みやセキュリティ対策を含め、災害時に適時、適切に対応できる方法を検討する。

質問 市で指定している避難所には発電機等の電源を整備することが重要。電気自動車による電源確保も検討すべき。

答弁 今年度末までに配備が完了する予定。電気自動車に関しては、現時点では考えていない。

質問 避難所にイラストや文字を指で示して使うコミュニケーション支援ボードの設置を提案。

答弁 避難所で活用できるように準備する。

質問 介護ボランティアポイント制度活動の励みになる小千谷版介護ボランティアポイント制度を作るべき。

答弁 地域の実情に応じた活動の展開を支援する。ポイント制度は作らない。

佐藤 隆一 議員



「ゴミゼロ」を目指した処理計画への転換

質問 市のごみ処理には、年間7億ほどの予算が投じられていると思いますが。

答弁 令和元年度は、6億5千万円ほどかかっています。

質問 金額の違いは、予算と決算の違いではないですか。

答弁 そのとおりです。

質問 昨年度は、可燃ゴミ・不燃ゴミともに増えていますが、その背景についてお伺いいたします。

答弁 いずれも事業系のゴミが増加したことによると思われるます。

質問 小千谷市は、食の食べきり運動を、ポスターや広報紙を使ったキャンペーンを行っていますが、具体的な指標がないと、空論に終わる恐れがあると思いますが、いかがでしょうか。

答弁 食の食べきりは、市民意識の醸成という意味合いもあり、意識の向上を通じて削減を進めていきたい。

質問 ゴミ処理業務が持続するために、焼却して埋め立てるから分別によってゴミを資源に変えるなど、減量化を進める方向へ転換することが必要ではないですか。

答弁 移住者からは、小千谷の分別は難しすぎるという声も聴く。また、分別は一つの方法にすぎません。

質問 10年間の更新費用13億9千万の根拠は。

答弁 これまでの積み重ねで現状に至っており、そうした前提で積算した結果です。

質問 ゴミゼロを目指す考えは。

答弁 現状ではありません。



ゴミの分別作業

ご意見をお寄せください！

小千谷市議会では、議会の活動を伝えるために、わかりやすく、親しみやすい「市議会だより」を目指しています。広聴広報委員会が中心となって編集作業を行っていますが、皆様のご意見を取り込みながら、今後も改善を進めていきます。ご意見・ご感想をお待ちしております。

前号（7月25日発行）から・・・

- 表紙の題字を変更しました。
- 一般質問にQRコード（録画中継）を付けました。

24日 本会議（第4日）

議員協議会

議員全員協議会

29日 議会改革推進委員会

（7月）
2日 新型コロナウイルス感染症対策支援本部会議

7日 広聴広報委員会

13日 広聴広報委員会

6日 議会改革推進委員会

7日 会派代表者会議

18日 民生産業委員協議会

21日 県市議会議長会監事会

24日 長岡電力センター視察

25日 議会運営委員会

27日 議会改革推進委員会

（8月）

1日 第3回定例会（本会議）

議員全員協議会

広聴広報委員会

2日 常任委員会連合審査会

3日 常任委員会連合審査会

4日 総務文教委員会

7日 民生産業委員会

17日 議会運営委員会

18日 本会議（第2日）

24日 本会議（第3日）

議会運営委員会

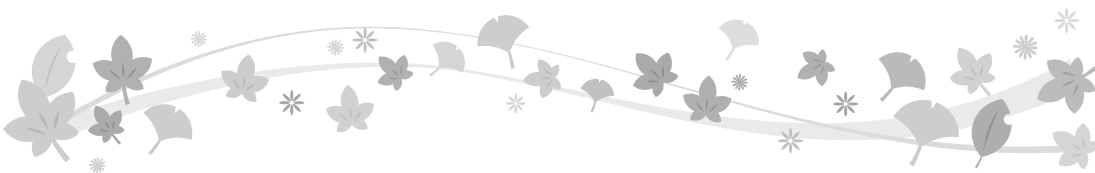
24日 議会運営委員会

24日 議会運営委員会

24日 議会運営委員会

24日 議会運営委員会

24日 議会運営委員会



安達 靖

（片貝町五之町）

コロナ禍の6月、片貝まつり奉納煙火の中止を受け、地域の有志と片貝花火サポーターズ倶楽部を立ち上げ、今年奉納を諦めていた方々に奉納煙火に代わるプライベート花火打ち揚げの活動を行っています。

『みんなの想いが花咲くまち片貝プロジェクト』も今ではすっかり定着し、多くの皆様から喜んでいただいております。

また奉納者様からは心温まる御礼メールやお手紙をいただき本当に嬉しく思っています。

今回プロジェクトに携わって気付かされたことも多々ありま

した。

固定観念にとらわれることなく、世代を超え、自由闊達な意見交換をしていくことが重要だと改めて感じました。

若者の発想力やアイデアにはハッとさせられることも多く、楽しくワクワクすることがたくさんあります。

現在、こうした意見やアイデアを積極的に取り入れながらプロジェクトをみんなで楽しく推進しています。

特に今はSNS全盛の時代、さらにはコロナ禍においての新しい生活様式の模索・確立と若い世代の意見や行動力がとても重要になってくると感じます。

『花火』は人々を明るくする素晴らしい力を持っています。町の財産である『花火』で地域の活性化に向け微力ながら貢献できればと思っています。



編集後記

9月24日に閉会しました市議会第3回定例会、今議会もコロナ禍での開催でしたが、最終日に議員発議にて「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）を市民とともに乗り越える共生社会実現のための決議」を全会一致で可決しました。これは、市民と力をあわせて、未知のウイルスによる分断と混乱を断固として打ち破り、何があっても負けない決意をもって、いわれなき偏見や差別が起らない社会を作り上げていくことを目指した決議で、感染者や関係者が勤務する事業所などに対する偏見を誘発・助長する言動、扱いをやめるよう求めるなど5項目を掲げています。

今後この決議にあるように、ふるさと小千谷をより一層希望あふれるまちとするために、行政、そして市民の皆さんとともに、強い決意をもって新型コロナウイルス感染症に立ち向かっていかなければなりません。

編集委員 久保田陽一